

『出るところマスター！ 衛生管理者試験 令和2年上期版』  
お詫びと訂正のお知らせ

本書の内容に誤りがございました。訂正箇所は下記のとおりになります。お詫びするとともに、訂正をお願い致します。

ページ等	内 容	
202 頁 第2章 労働衛生 （有害業務に係るもの） 解答	誤	<b>1 空気中の有害物質</b> 【1】 3 【2】 3 【4】 4 【5】 5 【6】 3 【7】 3 【8】 5 【9】 5 【10】 4 【11】 2
	正	<b>1 空気中の有害物質</b> 【1】 3 【2】 3 <b>【3】 4 【4】 5</b> <b>【5】 3 【6】 3 【7】 5 【8】 5</b> <b>【9】 4 【10】 2</b>
283 頁 第3章 関係法令 （有害業務以外のもの） 18 労働時間・休憩・休日 過去問題 【1】 選択肢3.	誤	3. フレックスタイム制に係る労使協定は、所轄労働基準監督署長に届け出る必要はない。
	正	3. <b>清算期間が1か月以内</b> のフレックスタイム制に係る労使協定は、所轄労働基準監督署長に届け出る必要はない。
312 頁 第4章 労働衛生 （有害業務以外のもの） 11 温熱環境 解説	誤	<b>【7】 &amp; 【8】</b> 屋外で太陽照射のある場合 $WBGT = 0.7 \times \text{自然湿球温度} + 0.2 \times \text{黒球温度} + 0.1 \times \text{乾球温度}$ 屋内の場合又は屋外で太陽照射のない場合 $WBGT = 0.7 \times \text{自然湿球温度} + 0.3 \times \text{黒球温度}$ <b>【9】</b> WBGT の算出式で「屋内及び屋外で太陽照射がない場合」は、以下のとおり。 $WBGT = 0.7 \times \text{自然湿球温度} + 0.3 \times \text{黒球温度}$ で求める。 <b>【10】</b> A. <b>該当する</b> ：不快指数は、乾球温度と湿球温度で測定する。 B. <b>該当する</b> ：相対湿度は、アスマン通風乾湿計（乾球温度と湿球温度）で測定する。 C. 該当しない：実効温度は、気温、湿度、気流の総合効果を体感で判断した温熱指数で、乾球温度と湿球温度の他、気流を熱線風速計で測定して求める。 D. 該当しない：WBGT（湿球黒球温度）は、暑熱環境による熱ストレスの評価に用いられる指標で、自然湿球温度、黒球温度で測定。屋外で太陽照射がある場合は乾球温度も算出に用いる。
	正	<b>【6】</b> A. <b>該当する</b> ：相対湿度は、アスマン通風乾湿計（乾球温度と湿球温度）で測定する。 B. 該当しない：実効温度は、気温、湿度、気流の総合効果を体感で判断した温熱指数で、乾球温度と湿球温度の他、気流を熱線風速計で測定して求める。 C. <b>該当する</b> ：不快指数は、乾球温度と湿球温度で測定する。 D. 該当しない：WBGT（湿球黒球温度）は、暑熱環境による熱ストレスの評価に用いられる指標で、自然湿球温度、黒球温度で測定。屋外で太陽照射がある場合は乾球温度も算出に用いる。 <b>【7】 &amp; 【8】</b> 屋外で太陽照射のある場合 $WBGT = 0.7 \times \text{自然湿球温度} + 0.2 \times \text{黒球温度} + 0.1 \times \text{乾球温度}$ 屋内の場合又は屋外で太陽照射のない場合 $WBGT = 0.7 \times \text{自然湿球温度} + 0.3 \times \text{黒球温度}$ <b>【9】 &amp; 【10】</b> WBGT の算出式で「屋内及び屋外で太陽照射がない場合」は、以下のとおり。 $WBGT = 0.7 \times \text{自然湿球温度} + 0.3 \times \text{黒球温度}$ で求める。

ページ等	内 容					
443 頁 第 5 章 労働生理 9 内分泌系とホルモン 過去問題 【8】 選択肢 5.	誤	A	B	C	D	E
	☑	1. 減少	増加	副腎皮質	副腎髄質	減少
		2. 減少	増加	副腎髄質	副腎皮質	増加
		3. 増加	減少	副腎皮質	副腎髄質	増加
		4. 増加	減少	副腎髄質	副腎皮質	減少
		5. 増加	減少	副腎皮質	副腎髄質	増加
	正	A	B	C	D	E
	☑	1. 減少	増加	副腎皮質	副腎髄質	減少
		2. 減少	増加	副腎髄質	副腎皮質	増加
		3. 増加	減少	副腎皮質	副腎髄質	増加
		4. 増加	減少	副腎髄質	副腎皮質	減少
		5. 増加	減少	副腎皮質	副腎髄質	減少